

【報告事項 1.】 平成 29 年度事業報告の件

平成 29 年度は、継続的に実施している公益事業として、調査研究事業、小動物地域獣医療の充実のための情報提供、狂犬病等の人と動物の共通感染症の都民生活への発生予防・まん延防止、学校飼育動物を通じて都民への動物愛護精神啓発と児童の健全育成の支援、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による畜産物に係る都民の食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した動物福祉の向上と、人と動物のより良い共生社会の構築、補助犬の保健衛生の向上及びその普及啓発活動を通じた補助犬法の周知と身体障がい者生活支援、災害時の動物救護対策の構築、小笠原諸島や御蔵島などの希少種や繁殖地の自然環境保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療などの活動に取り組んだ。

学術事業においては、東京都医師会との協定に基づき、高齢者の動物飼育支援をテーマとした合同シンポジウムを共催し、平成 30 年度に継続することとした。

また、関東・東京合同地区獣医師会の持回り事業として、本会が担当し開催した関東・東京合同地区獣医師大会・三学会においては、会員、賛助会員が共に作り上げることをめざし、支部から選出された運営委員や賛助会員有志と協議を重ね、学会・大会を盛況のうちに開催することができた。

関連組織との連携事業として平成 31 年度開催の FASAVA 東京大会を、FASAVA 本部との連携を図りつつ日本臨床獣医学フォーラム（JVBP）と共働して準備を進めている。

また平成 32 年に開催される東京オリンピック（パラリンピック）については、「人と動物とがともに幸せに暮らせる街・東京」を世界に示す機会として、オリンピック・パラリンピック選手をサポートする介助動物だけでなく、観戦者が同伴する介助動物も含め、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や、公益財団法人日本補助犬協会等と連携し、補助犬の暑さ対策も含めてサポートしていくことを検討した。

かねてより本会が提唱している HATT 構想の実現については、恒例となった小池東京都知事のヒヤリングにおいて繰り返し提言するとともに、動物業界のみならず様々な分野・業種が一致協力した取り組みとなるよう、関係機関、賛助会員、東獣サポーターとのミーティングを行うなどして連携を図ってきた。

本会会員に対する福利厚生サービスについても、賛助会員 78 社による協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の実に積極的に取り組んできた。

I 会 務 報 告

1. 役職員等の人事

(1) 東京都庁関係：

- 小松泰史副会長：東京都動物愛護管理審議会委員（H28年3月～H30年2月）
- 村中志朗会長：東京都動物愛護管理審議会委員（H30年3月～H32年2月）
- 天野芳二副会長：東京都動物愛護推進協議会委員（H28年8月～H30年2月）
- 平井潤子事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（H30年3月～H33年2月）
- 高橋恒彦理事：東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員（H29年7月～H31年7月）
- 高橋恒彦理事：東京都自然環境保全審議会委員（H29年7月～H31年6月）

(2) 日本獣医師会関係：

- 村中志朗会長：日本獣医師会副会長（H29年7月～H31年6月）
- 天野芳二副会長：東京地区代表理事（H29年7月～H31年6月）
- 天野芳二副会長：動物感謝デー 実行委員（H28年7月～H30年6月）
- 小松泰史副会長：マイクロチップ普及推進特別委員会委員（H27年7月～H29年6月）
- 天野芳二副会長：職域総務部会総務委員（H29年7月～H31年6月）
- 天野芳二副会長：家庭動物飼育環境健全化検討委員会（H29年7月～H31年6月）
- 中川清志理事：動物福祉・愛護部会 適正管理対策委員会小委員会
動物福祉愛護委員会委員（H29年7月～H31年6月）
学校動物飼育支援対策検討委員会（H29年7月～H31年6月）

(3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

- 小松泰史副会長：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（H29年7月～H30年6月）

(4) オリンピック関係：

- 村中志朗会長：一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問（H26年6月～）

(5) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

- 村中志朗会長：東京地区代表理事（H29年4月～任期1年）
- 天野芳二副会長：監事（H29年4月～任期1年）

(6) その他：

- 村中志朗会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員（H29年5月～）
- 高橋恒彦理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事（H29年5月～）

2. 本会の活動状況

(1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。

- ア. 定時総会：第6回 6/18
- イ. 定例理事会：第1回 5/19、第2回 7/20、第3回 9/28、第4回 12/21、第5回 3/15
- ウ. 臨時理事会：
- エ. 監査会：第1回<H28 全期決算監査>5/11、第2回中間監査会 11/28
- オ. 会務運営会議：第1回 5/9、第2回 11/13
- カ. 業務執行理事打合せ：第1回 5/9、第2回 6/29、第3回 8/16、第4回 10/19、第5回 11/13、第6回 2/28
- キ. 地域職域合同支部長会：第1回 6/8(日猷会議室)
- ク. 倫理委員会：
- ケ. 役員候補者選任委員会：第1回 6/14、第2回 10/18、第3回 2/26
- コ. 共生社会構築委員会：第1回 5/10、第2回 7/5、第3回 9/13、第4回 10/25、第5回 12/20、第6回 2/7
- サ. 産業動物委員会：第1回 2/14
- シ. 獣医公衆衛生委員会：第1回 12/6
- ス. 防災ブロック長会議：第1回 3/29
- セ. 広報委員会：第1回 4/17、第2回 6/6、第3回 7/25、第4回 9/15、第5回 10/26、第6回 12/12、第7回 1/23、第8回 3/5
- ソ. 東京地区三学会幹事会 第1回 5/23
- タ. 表彰審査委員会 第1回 4/13、持ち回り 4/4、第2回 11/8、持ち回り 9/14
- チ. 感染症対策マニュアル作成委員会 第1回 8/3、第2回 10/3、第3回 11/28、第4回 2/20
- ツ. 都委託医療事故防止・対策委員会 第1回 11/8、第2回 1/10、第3回 3/6
- テ. 都補助事業運営委員会 第1回 10/10、第2回 11/15、第3回 1/28、第4回 3/26
- ト. 災害マニュアル検討委員会 第1回 1/30、第2回 3/19 打合せ 10/16
- ナ. 夜間診療 WG
- ナ. 狂犬病予防対策 WG 第1回 7/11、第2回 9/19、第3回 11/21
- ニ. 小学校動物飼育推進校事業 WG 第1回 7/18、第2回 10/20、第3回 12/5
- ヌ. 自然環境保全活動 WG 第1回 5/29、第2回 11/7
- ネ. 70周年記念誌編集委員会 第1回 12/8、第2回 3/20
- ノ. 関獣連運営会議関連 4/26(企画検討会議) 7/10(ブース打合せ)、8/31(全体会議)、9/10(関獣連当日)
- ハ. 東獣賛助会員ミーティング 11/16、3/28
- ヒ. 東獣サポーターミーティング 2/28
- フ. 支部会計担当者会議 10/11
- ヘ. FASAVA 関連会議 6/30、10/3、12/1、2/6

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

- ア. 公益認定申請関係：平成 28 年度事業報告及び決算報告の電子申請（6/30）、平成 30 年度事業計画及び予算計画の電子申請（3/31）
- イ. 都庁関係：災害時緊急対応に係る通信訓練の実施（3/22）、H29 東京都動物愛護推進員委嘱状交付式への出席（5/9）、東京都動物由来感染症検討会への委員派遣（7/20）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」診療券の贈呈（H30 年度分 3/26）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」感謝状の受領（5/30）、危機管理に関する事業者（指定公共機関）会議参加（10/20）、東京都動物愛護推進協議会への出席（3/7）、H29 東京都委託獣医師育成対策事業の受託、H29 東京都補助獣医公衆衛生学術振興事業の受託、H29 東京都委託動物病院における動物由来感染症モニタリング事業受託、H29 傷病野生鳥獣の保護治療等事業受託、H29 ノネコ搬送に伴う感染症対策等事業受託、H29 小学校動物飼育推進校事業受託、H30 予算編成に関するヒヤリングのための小池都知事との面談*（11/6. 1/23） 等

※小池都知事に対するプレゼンテーションについて

東京都動物愛護センター移転改築に際し、官民が共働して取り組む事業案や都民が足を運びたくなる施設コンセプト等の提案を行った。

- ウ. 日獣関係：第 73 回通常総会 6/22、H29 年度全国獣医師会事務事業推進会議 7/14、2017 動物感謝デー in JAPAN WORLD Veterinary Day（駒沢）9/30、平成 29 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（大分）2/10～2/12、日獣委託小動物臨床講習会 2/4
- エ. 関東連関係：理事会・学会幹事会：第 1 回（東京）4/2、第 2 回（東京）7/30、第 3 回（東京）2/18、監査会 2/18、関東連大会・学会 9/10（都市センターホテル・東京）にて開催され、約 1300 名の参加者と 61 社の協力を得て無事に終了した。関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会間における災害時相互協力に関する協定書締結（7/30）、関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会間における災害時相互協力に関する協定細目締結（7/30）、関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会の連携・相互協力に関する覚書締結（7/30）
 - ・H29 大会スローガン：東京都獣医師会「2016 福岡宣言（One Health）」の理念を広く社会に浸透させ、正しい知識を普及啓発しよう大会宣言 1. マイクロチップ啓発強化・登録の推進を図る 2. 「2016 福岡宣言（One Health）」の理念を広く社会に浸透させ、正しい知識を普及啓発する 3. 動物用抗菌剤の責任ある慎重使用を進める 4. 社会的ニーズに応え得る「良質かつ高度な獣医療供給体制」を確立する 5. 災害時の動物救護活動における広域支援・受援体制を確立する 6. 動物を介した児童等の情操教育の拡充・強化する
 - ・H29 獣医事功績者推薦：川原和彦（江戸川）、山倉文雄（江戸川）、三原康夫（豊島）、幅田慶子（目黒）、渡邊正俊（多摩西）、奥山幸子（中央）、山口勝（多摩東）、

笠井千石（江東）、藤原定行（武蔵野三鷹）、遠矢東五（北多摩）、浜田正人（北多摩）、玉川清司（品川）、伊東秀行（葛飾）、七戸多美子（日獣大）、新妻信子（練馬）、大野元雄（共済）、日橋民江（かんらん）、五島昇（江戸川）、淺沼博文（中央）、池田忠生（生物医学）、川瀬清（世田谷）

オ．政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：第1回6/11、第2回11/27

カ．他府県獣医師会：埼玉県獣医師会第69回定時総会 6/7、

キ．中央畜産会：H29年度定時総会6/21、H29地方会員活動支援推進事業に係る全国会議6/21、全国推進会議7/28への参加

ク．その他：関東しゃくなげ会 第38回獣医師技術研修会（総会）への参加（6/16）

（3）国際交流関係：2017FASAVA オーストラリア大会ゴールドコースト8/11-14、日本臨床獣医学フォーラム年次大会2017でのロビー活動9/15-17、（一社）FASAVA-Tokyo 理事会第1回6/30、第2回10/3、第3回12/1、組織運営員会第1回6/30、第2回10/3、第3回12/1、第4回2/6、2018FASAVA シンガポール大会参加者募集を開始した。

2020 東京パラリンピック開催に備え、平昌パラリンピックを視察3/9-12、ソウル市獣医師会との情報交換した他、韓国での獣医療の現状に係る知見を深めるために、ソウル市内の動物病院を見学、また動物保護の状況を知るためにソウル市動物福祉センターを見学した。

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア．学会、講習会等：事業実施報告参照

イ．支部学術講習会の計画等：※日獣生涯研修申請分

・北多摩支部講習会「慢性疼痛管理」9/1

・品川・大田・中央支部合同学術講習会「思いつきではなく、合理的かつ最速で診断に到達する方法「様々な症例から学ぶ診断法」」11/5

4. 本会が後援したイベント・キャンペーン等

【協賛】

・特非）野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン H29.4月-H30.3月

・一社）ペットフード協会・メサゴ・メッセフランクフルト(株) インターペット2017 H29 3/30-4/2（東京ビッグサイト）

・第30回世界牛病学会2018札幌組織委員会 第30回世界牛病2018札幌 H30 8/28-9/（札幌コンベンションセンター）

・ペットとの共生推進協議会「第6回ペットとの共生推進協議会シンポジウム」11/19（東京大学 弥生講堂）

【協力】

・「災害動物医療体制の確立による人と動物が共存できる地域の創造」プロジェクト H26.10月- H29.10月（日本獣医生命科学大学）（災害動物医療研究会）

- ・日本獣医生命科学大学研究事業「加齢性動物疾病の先制医療拠点の構築プロジェクト」
【後援】
- ・特非) 動物愛護社会化推進協会 第 19 回公開シンポジウム「動物と子ども」5/27 (東京大学 弥生講堂)
- ・特非) 動物愛護社会科推進協会 第 21 回公開シンポジウム「ペットのストレスサインを見逃すな！」H30 5/27 (東京大学 弥生講堂)
- ・ジャパンケネルクラブ「FCI ジャパンインターナショナルドッグショー2018」H30 3/29-4/1 (東京ビッグサイト)
- ・一社) 東京城南地域獣医療推進協会 TRVA 講習会「新しいWSAVA ワクチンガイドラインについて」5/14 (大井町 きゅりあん)
- ・獣医アトピー・アレルギー・免疫学会「10 周年記念大会」8/5-6 (国際ファッションセンター)
- ・一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム 第 19 回年次大会 9/15-17 (ホテルニューオータニ)
- ・日本女性獣医師の会 30 周年記念行事講演会 7/9 (中野サンプラザ)
- ・ヤマザキ学園「創立 50 周年事業」南大沢キャンパス 3 号館竣工記念講演 5/14
- ・ヤマザキ学園「創立 50 周年事業」第 7 回動物愛護シンポジウム「動物愛護と青少年の教育を考える ～動物たちが教えてくれること～」7/17 (有楽町朝日ホール)
- ・JAHA 第 157 回国際セミナー「腎臓病学」7/21-23 (研究社英語センター)
- ・JAHA 第 158 回国際セミナー「絶対ためになる 2 日間集中講義 The 腫瘍学」9/30-10/1 (アーバンネット神田カンファレンス)
- ・JAHA 第 159 回国際セミナー「脳神経外科の神髄～先天性疾患から腫瘍の最先端医療まで」12/12-14 (研究社英語センター)
- ・JAHA 第 160 回国際セミナー「インターベンショナルラジオロジー」H30 1/23-25 (アーバンネット神田カンファレンス)
- ・JAHA 第 161 回国際セミナー「一歩先ゆく麻酔と疼痛管理」2/23-24 (飯田橋レインボービル)
- ・JAHA 年次大会東京ミーティング「Human animal Bond for One Health: どうぶつとともに素晴らしい生活を！」10/28, 29 (東京大学 弥生講堂他)
- ・JBVP「第 19 回日本臨床獣医学フォーラム年次大会 2017」9/15-17 (ホテルニューオータニ)
- ・日本野生動物医学会「第 23 回日本野生動物医学会大会」9/1-3 (日本獣医生命科学大学)
- ・全国学校飼育動物研究会「第 19 回全国学校飼育動物研究大会」8/19 (東京大学 弥生講堂)
- ・株式会社 V&P 外科セミナー「明日からすぐ役立つ！いたみの早期発見と介入方法」7/17 (幕張メッセ国際会議場)
- ・一財) クリステル・ヴィ・アンサンブル「第 2 回アニマルウェルフェアサミット 2017」8/27-28 (東京大学 弥生講堂)

- ・狂犬病臨床研究会「世界狂犬病デー2017～WRD2017inJAPAN～」9/30（駒沢公園）
- ・ファームプレス「Pharm Press RECOVER CPR Training & Certification」H30 1/24（北摂ベッツセンター）
- ・ちよだ猫まつり実行委員会 ちよだ猫まつり H30 2/17～18（千代田区役所）
- ・一社）日本獣医麻酔外科学会 「おしっこが出ない！閉塞性尿路疾患、あなたの対処法は？」3/4（東京大学 弥生講堂）
- ・一社）日本獣医麻酔外科学会「軟部外科ラウンド 2017 ～Meet the Experts～」11/26（日本大学生物資源科学部）
- ・災害動物医療研究会 災害動物医療シンポジウム『災害動物医療のこれまでとこれから』H30 4/8（日本獣医生命科学大学）

5. 表彰等

東獣'17 イヤーズカンファレンスにおいて、以下の19名が会長表彰を授与された。

受賞対象：A会員

黒須 幸雄（江戸川支部）	植村 壽夫（城北支部）
鈴木 彦一（足立支部）	森 治子（多摩東支部）
大恵 雅文（大田支部）	広瀬 正美（町田支部）
酒井 譲（北多摩支部）	安田 英巳（目黒支部）
加藤 友康（練馬支部）	鈴木 芳司（世田谷支部）
菅又 恒子（北多摩支部）	

受賞対象：B会員

小泉 清明（東京都公衆衛生支部）	小野 恵（橄欖支部）
戸田 成仁（橄欖支部）	大久保光行（共済支部）
石田 卓夫（中央支部）	岡崎 留美（東京都公衆衛生支部）
島田 寿子（橄欖支部）	鈴木 博（東京都産業労働局支部）

6. その他

（1）組織率の向上

- 1）東獣'17 イヤーズカンファレンス 1/28（日）開催後に懇親会を開催し、執行部と会員、賛助会員とが近しく意見交換を行う場を提供し組織充実に努めた。
- 2）会員へのタイムリーな情報提供と情報収集のツールとして、東獣会員専用サイトを構築し、各種割引制度、福利厚生制度等会員特典情報を提供した。
- 3）敬老の日を祝して、対象会員に対してお祝い品（Quo カード）を贈呈した。
- 4）本会案内パンフをもって広報すると共に、他の関連組織への訪問や講習会等への参加を勧誘して加入促進に努めている

(2) 収益事業

- 1) 「第8回インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～」企画「犬猫ペット健康相談所」、日本獣医師会企画「キッズ獣医師体験ブース」と、ジャパンケネルクラブ「FCI ジャパンインターナショナルドッグショー2018」企画の「愛犬健康相談所」への獣医師派遣の調整を行った。
- 2) 本会作成の印刷物（カレンダー・証明書等）を頒布した。
- 3) 保険加入斡旋などの事務手続きによる収入を得た。

8. 本会組織の会員状況

平成29年度末会員数は、A会員名671名、B会員491名、計1,162名である。

年度内の入会は53名、退会41名（逝去13名含）、長寿会員67名のうち、会費免除高齢会員66名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A会員			B会員			計		
	29年度 会員数	28年度 会員数	差異	29年度 会員数	28年度 会員数	差異	29年度 会員数	28年度 会員数	差異
中央	24	25	△1	14	14	0	38	39	△1
文京	17	17	0	6	6	0	23	23	0
新宿	17	17	0	5	4	1	22	21	1
中野	19	18	1	1	1	0	20	19	1
杉並	38	38	0	13	14	△1	51	52	△1
世田谷	60	60	0	36	33	3	96	93	3
渋谷	9	9	0	2	2	0	11	11	0
目黒	27	27	0	6	6	0	33	33	0
大田	45	45	0	18	16	2	63	61	2
品川	21	19	2	6	5	1	27	24	3
勝島	13	13	0	0	0	0	13	13	0
江東	20	21	△1	5	3	2	25	24	1
墨田	19	19	0	1	1	0	20	20	0
城北	20	18	2	1	1	0	21	19	2
葛飾	20	19	1	1	1	0	21	20	1
江戸川	23	25	△2	9	8	1	32	33	△1
足立	21	21	0	0	0	0	21	21	0
北	17	17	0	0	0	0	17	17	0
豊島	15	15	0	1	2	△1	16	17	△1
板橋	19	20	△1	4	4	0	23	24	△1
練馬	36	36	0	13	16	△3	49	52	△3
武蔵野三鷹	16	17	△1	2	2	0	18	19	△1
北多摩	34	34	0	5	4	1	39	38	1
多摩東	23	24	△1	4	5	△1	27	29	△2
南多摩	16	16	0	4	5	△1	20	21	△1
八王子	21	21	0	1	0	1	22	21	1
町田	20	21	△1	0	0	0	20	21	△1
多摩西	41	43	△2	3	3	0	44	46	△2
小計	671	675	△4	161	156	5	832	831	1

職域	B会員		
	29年度 会員数	28年度 会員数	差異
農水省	3	3	0
動薬検	0	0	0
都産労	8	10	△2
都公衆衛生	31	29	2
東大	16	17	△1
農工大	17	17	0
日獣大	35	34	1
生物医学	26	27	△1
日生研	7	7	0
松研	2	2	0
中央競馬	3	3	0
共済	11	12	△1
動物薬事	39	36	3
かんらん	132	122	10
小計	330	319	11
B会員計	491	475	16

平成29年度 会員数	A会員	B会員	合計
	671	491	1162

東京都獣医師会総会員数			
	29年度	28年度	差異
総計	1162	1150	12

II 事業実施報告

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

東京都医師会と東京都獣医師会との学術協定締結に伴い、連携シンポジウム（下記詳細）を開催した。アメリカのミズーリ州にある「タイガープレイス」は、ペットとずっと一緒に暮らせる高齢者専用住宅として、注目を浴びている。ペットを飼育できる環境が十分に整っており、介助や介護が必要になった高齢者でも安心して一緒に暮らすことができる。本講習会では、タイガープレイスの設立者であり、この分野における米国内外の第一人者として活躍されているレベッカ・ジョンソン先生を講師にお招きし、高齢者が動物と共に暮らすことで得られる生理的・心理的効果についてご講演いただいた。

日 時：平成 29 年 11 月 11 日（日）15：00～16：30

場 所：東京都医師会館 2 階ホール（千代田区神田駿河台 2-5）

参加人数：178名（東獣関係者75名、医師会からの参加者26名、一般参加者10名、学校法人シモゾノ学園67名）

テーマ：「伴侶動物と共に年齢を重ねる場所：タイガープレイスの13年間」

“Aging in Place with Companion Animals: Thirteen Years of Tiger Place”

講 師：レベッカ・ジョンソン先生（Rebecca Johnson）

ミズーリ大学 人と動物との相互作用研究センター所長

ヒトと動物の関係に関する国際組織 IAHAIO 元会長

2. 狂犬病予防対策推進事業

昨年引き続き、狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。平成29年度においては90,097頭の実績となった。（前年比▲3.7%、3,423頭減少）

また、狂犬病予防に対する知識の普及・啓発事業を推進し、狂犬病の発生及びまん延、拡大の阻止を図り、都民の生命と財産の安全を確保することで公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

2-ア. 都民に対する狂犬病に関する情報提供と周知；

平成 26 年度に制作した本会監修の動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性に対する啓発活動を継続して実施した。

平成 29 年度狂犬病発生時対応訓練（東京都）、疑狂犬病発生を想定した訓練に参加した。

2-イ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において狂犬病に関するポスターを活用して犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼養

を指導し、狂犬病予防法の法令遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。

2-ウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病に対する意識向上、狂犬病の臨床診断能力の向上、並びに狂犬病に関連する法規の再確認を行うため、獣医師を対象に講習会及び狂犬病支部担当者会議を開催した。狂犬病支部担当者会議では、屋外集合注射の今後について、各地域での契約状況について、狂犬病予防注射事業賠償契約について、猶予証明についてなど、様々な問題点について意見交換を行い、情報共有と意思統一に努めた。

平成29年度日本獣医師会小動物臨床講習会においては、～考えたくないことを考えてみよう。もしもの時あなたはどうしますか？～と題し、三部構成で講習会を開催した。狂犬病発生時や災害発生時など、「もしも」に備えることの重要性について真摯に考える動機付けとなった。この成果を地域に持ち帰ることで、有事に備えての対策検討の一助となることが期待できる。

《平成29年度獣医日本獣医師会小動物臨床講習会》

日時：平成30年2月4日（日）15:00～18:00

場所：中野サンプラザ 研修室5+6

参加人数：86名（本会会員52名、賛助会員6名、その他28名）

講習演題名と内容：

第1部「60年発生していない死の病，狂犬病 準備策は万全ですか？」

佐藤 克（公益社団法人東京都獣医師会 危機管理室感染症対策セクション長）

第2部「どうする？ 災害時の動物避難 ～被災地の事例から学ぶ飼い主の備え～」

平井 潤子（公益社団法人東京都獣医師会 事務局長）

第3部「ディスカッション 狂犬病と災害の関連について」

佐藤 克、平井 潤子

《平成29年度支部担当者会議》

日時：平成30年2月4日（日）14:00～14:45

場所：中野サンプラザ 研修室5+6

参加人数：34名

対象者：各地域支部狂犬病担当者

内容：屋外集合注射の今後について

各地域での契約状況について

狂犬病予防注射事業賠償契約について

猶予証明について 等

2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

27の地域支部において、狂犬病予防定期集合注射の安定的な実施及び注射済票交付を実施し、狂犬病予防注射の接種率向上に努めるとともに、法による犬の登録の受付を代行するなどして、飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部においては、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」への加入をとりまとめ、支部による狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また一方では、狂犬病予防注射離島対策事業として、東京都下島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

平成29年度は実施していない。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内には災害、人畜共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。

各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的且つ速やかに実施するために、本部及び、支部において、都、及び市区町村で開催する防災担当者会議等に積極的に参加し、ガイドラインやマニュアルの整備など、動物救護の仕組み作りの検討に協力した。

また、平成29年度東京都総合防災訓練（調布市多摩川児童公園・9/3）に地元の多摩東支部とともに参加し、ブースにおける防災用品やパネル展示、印刷物の配布、マイクロチップ挿入のデモンストレーション等により都民に対して、動物を飼育する上での災害対策についての知識の普及啓発を行った。

更に有事を想定して、本会独自の安否確認システムにより平成29年9月1日及び平成30年3月11日の2回にわたって会員の安否確認訓練を実施した。

9/1実施分のSNS安否確認訓練の結果は、AM10:00に登録者598件に発報、319件の回答があり、残りの279件は未返信もしくは不達であった。3/11実施分のSNS安否確認訓練の結果は、AM10:50に登録者597名に発報、267件の回答があり、残りの330件は未返信もしくは不達であった。

この安否確認メール未達対策のため毎月15日にテスト送信を実施し、問題解決を図った。

災害対策の普及啓発ツールとして、「災害対策啓発パネル（熊本地震に学ぶ）」や講演用スライドを制作し、地域支部に提供した。

本会で平成13年に作成した緊急災害時動物救護ガイドライン（社団法人東京都獣医師会ガイドライン）については、災害マニュアル制作委員会にて見直しを行っており、平成30年度に継続することとした。

3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ情報を本会ウェブサイト公開し、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に寄与した。

感染症対策マニュアル作成委員会を設置し、本会で平成19年度に作成した人と動物の共通感染症ミニ知識ガイダンスの見直しをおこなった。改訂後は会員の利便性を考え、本会ホームページ上にコンテンツを設けることとし、平成30年度に継続することとした。

平成29年7月に厚生労働省健康局結核感染症課より日本獣医師会を通じて通知のあった、徳島県で確認された重症熱性血小板減少症候群（SFTS）罹患動物（犬）に関して、支部長を経由した連絡及び本会 SNS 情報伝達ツール登録者へ、対応の注意点等情報提供を行った。更に8月に東日本での発生の可能性や不顕性感染について等の追加情報提供を、10月に症例について、平成30年3月にはその続報について、会員病院に対し、支部長を経由して情報提供をおこなった。

平成30年1月に都内（大田区）で確認された高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、会員病院に対し、支部長を経由した連絡及び本会 SNS 情報伝達ツール登録者へ、対応の注意点等情報提供を行った。また、一般都民に対して本会ホームページにて注意喚起を行った。

また、平成30年1月に厚生労働省健康局結核感染症課長より、日本獣医師会を通じて通知のあった、コリネバクテリウム・ウルセランスによるジフテリア様症状を呈する感染症患者に関する情報について、会員病院に対し、支部長を経由して情報提供をおこなった。

平成30年2月に都内（町田市）の施設内で確認された、台湾リスへのレプトスピラの感染疑いについて、会員病院に対し、支部長を経由して情報提供をおこなった。

4. 獣医公衆衛生対策推進事業

4-ア. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員の動物病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取し①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④ジアルジア症 ⑤瓜実条虫症 ⑥犬糸状虫症⑦犬ブルセラ症（犬のみ）⑧トキソプラズマ症（猫のみ）（平成29年度は、ノミ刺咬症の報告を廃止し、犬糸状虫症の報告を追加。）等、人と動物の共通感染症の疫学モニタリング調査を実施し、定点観測を継続した。

また、都内会員の動物病院6施設の協力を得て、人に感染する可能性のある下痢症等の原因菌（黄色ブドウ球菌、大腸菌、サルモネラ菌、クレブシエラ・オキシトカ、エルシニア・エンテロコリチカ、赤痢菌、ビブリオ・ミミカス、腸炎ビブリオ、バシラス・セレウス、カンピロバクター、大腸菌O抗原）について、犬の糞便91検体、猫の糞便86検体を採取し検査した。来院した犬猫の飼い主に了解を得て糞便を採取

後、富士フィルムモノリス株式会社に検査を依頼しその罹患の有無を調べることに
よって、都民の健康を守るための人と動物の感染症の発生状況等の予察に協力した。

4-イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

所轄官庁から発信される人と動物の共通感染症及び食の安全対策に関わる公示・通
達等を、本会ウェブサイト、東獣ジャーナルで広報した。

5. 学校動物飼育対策推進事業

教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、および動物愛護精神
の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に
実施されるよう努め、以下の事業を行った。

5-ア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学校飼育動物が命あるものとして扱われ、児童とのふれあいを基本とする飼育活動
の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を支部委託事業と
して都内全域において行った。

支部を通じて依頼のあった学校及び教育委員会に対し本会から講師を派遣した。

講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導、また児童や
教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施
療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる支部担当者間の情報の交換と提
供に努めた。

都内での高病原性鳥インフルエンザ発生時には教育庁と連携し、都内の公立・私立
学校に対して注意喚起を行った。

5-イ. 学校獣医師養成講座；

日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会
及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会、市民公開シンポジウム
「学習指導要領に則った効果的な動物飼育」に参加した。

小学校動物飼育推進校事業 WG において、本会会員向け「学校飼育動物支援獣医師講
習制度（仮）」の構築を検討している。

5-ウ. 動物飼育作文コンクール；

支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを
行い、その優秀作品を表彰した。

日 時：平成 29 年 9 月 29 日（金）

テーマ：第 36 回動物愛護作文コンクール(品川支部主催)

内 容：応募点数 144

小学5年生 入選10点 佳作10点

小学6年生 入選10点 佳作10点

表彰者：40名

本会役員出席：上野理事

5-オ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、会員獣医師20名を動員し、都内5つの推進校において①衛生管理指導、②体験活動事業、③研修会事業、④動物由来感染症発生時対応事業、⑤埋葬事業を実施した。また、事業の適正な推進と発展のため、小学校動物飼育推進校事業WGを設け、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し次年度事業への礎とした。

5-カ. 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院での死因検案を行い、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき、283件の死亡動物の検案と適切な埋葬を支援した。以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校並びに児童の「命を悼む心情」の醸成に努めた。

6. 動物愛護啓発事業

6-ア. 催事における啓発事業；

「第1回ハーナイアーフ（品川おどりの祭典）」を（一社）太平洋文化芸術協会と本会が主催、品川支部後援で平成29年6月10日（土）、6月11日（日）の両日、品川駅前のきゅりあん大ホールにおいて実施し品川支部会員、共生社会構築委員会委員、賛助会員他の協力を得て、動物愛護事業「動物のいのち救済基金」の募金活動等を行なった。

公益社団法人東京都獣医師会世田谷支部と世田谷区が主催した「世田谷区動物フェスティバル」（平成29年11月5日（日））にブース出展し、災害時の動物救援、同行避難活動事業などについてパネル展示やパンフレットの配布を行った。

平成27年度から開始した「動物のいのち救済基金」における高齢者の動物飼育に対する支援事業として、「あなたとペット・合わせて何歳？」と題し、飼い主とペットの年齢が合わせて80歳以上になられる方を対象に、3,000円分の特別診療券を世田谷区動物フェスティバル会場で13人に、町田支部主催事業「高齢動物表彰（平成29年12月実施）」において対象者6名（18枚）に配布した（4名12枚使用）。

また、平成30年度にむけ、高齢者が継続して動物を飼育できる環境整備に協力すべく、「高齢者の動物飼育支援システム（仮称：高齢飼育者サポートネット）」を構築することや、長寿犬・長寿猫の表彰について検討を進めていくこととした。

「第3回世田谷フラフェスティバル」の開催に合わせ、平成30年1月20日（土）、1月21日（日）の両日、本会主催の「動物いのちの絆」をテーマとしたブースイベント

を区民会館において実施し、共生社会構築委員会委員、賛助会員他の協力を得て、動物愛護事業「動物のいのち救済基金」の募金活動等を行なった。

平成 29 年度『動物のいのち救済基金』募金総額は 2,906,431 円（総計 135 件）となった。

日本獣医師会が主催する 2017 動物感謝デー 9 月 30 日（土）（駒沢オリンピック公園 中央広場）に参加し、小笠原自然環境保護活動に関連する啓発活動、災害時の動物救援、同行避難活動事業などについてパネル展示のブース出展を行った。

また、ステージイベントとして「『殺処分 0』～ そのために目指すべき様々な『0』について考える ～」と題し、殺処分 0 に関わる取り組みや目標を達成するためにすべきことなどについて、環境省動物愛護管理室則久室長、東京都動物愛護センター金谷所長、東京都動物愛護管理審議会委員高倉都議会議員、本会村中会長をパネリストとしたディスカッションを行った。結果、来場者アンケートで好評を得た。共生社会構築委員会においては、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、「HATT 構想」の参加実現に向けての検討を行った。

『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災袋とペット防災 BOOK を、本部あるいは支部の普及啓発イベントや防災訓練などでの販売する他、インターネットによる販売を開始した結果、防災袋 289 セット、防災 BOOK 464 冊を頒布することができた。

6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

また本部事業として、御蔵島ノネコ対策の一環で、御蔵島村からの助成を受け、村で捕獲し会員動物病院に搬送されたノネコの馴化、健康管理を行った上、希望する一般家庭へ譲渡する事業を行った。（平成 29 年度保護頭数 11 頭）

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会：平成 30 年 3 月 17 日都庁都民ホール」開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者支援活動事業

東京都福祉保健局と協力して身体障がい者を支援する目的で、動物診療施設等の協力を得て「ひかりの箱」募金活動を推進した。また、東京都福祉保健局を介して、身体障がい者補助犬使用者に対し、身体障がい者補助犬 1 頭につき 3 万円の診療券 130 頭分の交付を行い、補助犬の健康管理等の診察支援を行った。

平成 29 年度から利用者の利便性に配慮し、診療券の使用期間を 4 月 1 日～翌年 3 月

31 日の 1 年間とすることとした結果、利用率が上がり身体障がい者と補助犬に対し、より効果的な支援の提供が行えた。

平成 29 年度（H30 年 3/31 現在）では、約 210 万円の募金額を収集し、身体障がい者補助犬診療費の一部に充当した。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業

本会会員病院の協力を得て、夜間診療提供体制（ネットワーク）事業を継続して実施した。本事業は、登録している会員動物病院と夜間診療専門病院の参加で毎晩の当番制を実施し、夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページやポスター等により、電話連絡することによって当夜の当番病院を把握し、受診することで恒常的な夜間診療を提供できるよう、マネジメントを提供する仕組みで、組織として夜間診療活動を継続することによって、動物福祉や適正飼育、感染症対策などを図るだけでなく、獣医療を通じ飼い主の心情に寄り添うことで、人と動物のより良い共生社会創りに貢献することができた。しかし昨今では、診療時間の延長や夜間診療施設が増えてきたことに加え、インターネットなどを用いて飼い主が必要とする情報が得られるようになってきたことから、本事業は一定の公益目標を達成したとし、平成 29 年度をもって夜間診療提供体制（ネットワーク）事業を終了する。

今後は本会ホームページのシステムを活用し、夜間診療を行っている病院をインターネット上で紹介することとした。

10. 小笠原自然環境保護活動事業

小笠原諸島は、現地に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行ってきた。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは 40 羽だった生息数が少なくとも 400 羽を超え、順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認されており、地道な取り組みが功を奏していることが実証された。

10-ア. 保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した（平成 29 年度保護頭数 83 頭）。

受け入れ病院を継続的に確保するため、小笠原自然保護官事務所からの小笠原ネコプロジェクトに関するメーリングリスト加入促進に協力した。

10-イ. 小笠原諸島現地視察活動事業；

平成 29 年度に新設された小笠原世界自然遺産センター等を視察し、小笠原における在来種対策、外来種対策、ノネコ対策、伴侶動物の適正飼養啓発等の活動が円滑に進むよう活動した。

10-ウ. シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ、ポスター等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

千代田区が主催した「ちよだ猫まつり 2018」が平成 30 年 2 月 17 日（土）、2 月 18 日（日）の両日に開催され、ブース出展にて本会活動の有用性及び重要性の広報を行い、ステージにて理解向上に努めた。

平成 29 年 11 月 16 日（木）母島支所大広間にて、平成 29 年 11 月 18 日（土）小笠原世界遺産センターにて、「おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会」が開催され、派遣依頼により参加した。

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業

東京都の委託を受け、都民によって持ち込まれた傷病野生鳥獣を救護、施療活動を実施し、当該治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

これらの件数は 364 件であった。

一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等 67 件については動物の命の大切さから、保護、治療に対し、本会から助成した。

また、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

獣医師は、日進月歩する専門技術と知識の研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならないことから、次の学会、講習会、研究検討活動等を実施した。本年度は、獣医師育成対策事業（都委託）において獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、薬事法、人獣共通感染症、小動物獣医療に関わる臨床獣医師の資質向上、獣医療トラブルの未然防止と適切な獣医療の提供、臨床現場における危機管理対応能力の向上等を目的とした講習会を行った。獣医公衆衛生学術講習会（都補助）においては、「伴侶動物医療における薬剤耐性菌の現状と対策」を開催した。（４）、（５）の講習会については、東獣 17 イヤーズカンファレンスと題して、同時開催の形式をとった。

- (1) 三学会活動；関東・東京地区合同獣医師会大会・学会活動を通じて、技術と知識の研鑽に努めた。
- (2) 学術国際交流活動；加盟したアジア小動物獣医師会（FASAVA）会議、および学術交流活動に積極的に参加した。
- (3) 日本獣医師会による講習会；日本獣医師会と連携し、小動物又は獣医公衆衛生分野に関する学術講習会を開催し、知識と技術の研鑽に努めた。
- (4) 東京都委託事業による講習会；東京都委託の獣医師育成対策の一環とし、講習会を開催した。

日 時：平成30年1月28日（日）15:15～16:45 <90分>

会 場：都市センターホテル

テーマ：「実例から学ぶ。獣医療トラブル対策法」

講 師：フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）
 弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師

 動物看護師及び一般動物の飼育者等 関係者 35名

(5) 東京都補助事業による講習会；

講習会名：獣医公衆衛生学術講習会

日 時：平成30年1月28日（日）13:00～15:00 <120分>

会 場：都市センターホテル

テーマ：「伴侶動物医療における薬剤耐性菌の現状と対策」

講 師：田村 豊（酪農学園大学 動物薬教育研究センター教授）

参加人数：55名

(6) 学術情報提供；

都委託獣医師育成事業による講習会及び獣医公衆衛生学術講習会の映像資料等を制作し、獣医師限定のサイト上に公開した。

(7) 支部学術講習会；支部が実施する学術講習会をもって、継続した生涯教育の充実と地域学術振興の活性化に努めていくこととした。

平成29年度実績は以下の通りである。※日獣生涯研修申請分

- ・北多摩支部講習会「慢性疼痛管理」9/1
- ・品川・大田・東京中央支部合同学術講習会「思いつきでなく、合理的かつ催促で診断に達する方法 様々な症例から学ぶ診断法」11/5

13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

(1) 東獣ホームページの充実：関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年4回の刊行と掲載情報の充実に努めた。

東京都委託事業、補助事業や本会委員会における成果物など学術情報を掲載して、

知識の啓発に努めた。

また、時流に即した特集を企画し、デザインを大幅に変更するなどより読みやすい誌面とするように図った。

- 特集 No.583 (2017. 4) 「いったいどうなる？業界の、未来。」
No.584 (2017. 7) 「事業継承のホンネ」
No.585 (2017. 10) 「これだけは押さえておきたい獣医師法と獣医療法」
No.586 (2018. 1) 「世界を見た男たち。」

14. 家畜衛生防疫対策事業

14ーア. 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（農水省補助）；

都内の畜産農家において、牛海綿状脳症（BSE）が疑われる牛が死亡した際に、検査後の死亡牛が、発生場所から化製場まで輸送される間の適切な管理と処理に係る費用の助成等を農水省の補助を受けて行い、良好な家畜衛生及び安全な畜産生産の維持に協力した。平成 29 年度実績は 45 頭となった。（食の安全・消費者の信頼確保対策事業）

14ーイ. 家畜生産農場清浄化支援対策事業（農水省補助）；

農林水産省の補助による「家畜生産農場清浄化支援対策事業」を受けて、迅速診断法を活用し、移動予定牛や清浄化促進農場等の重点的な検査等を推進した。牛アカバネ病のワクチン接種を計画的、組織的に実施した。また、牛ヨーネ病の疾病の清浄化と家畜防疫対策実施基盤を強化し、畜産の安定的発展向上に努めた。本年度もヨーネ病、BVD-MD の発生はなく、自主淘汰は行われなかった。アカバネ病ワクチン接種補助の実績は 665 頭となった。（食の安全・消費者の信頼確保対策事業）

14ーウ. 東京都家畜衛生対策事業（東京都補助）；

東京都の補助により、牛アカバネ病、牛イバラキ病、牛 6 種混合ワクチン接種料一部助成し、また、牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化と家畜防疫対策の強化に貢献した。本年度は牛ウイルス性下痢・粘膜病の発生はなく淘汰は 0 となった。アカバネ・イバラキ・6 種混合ワクチン接種補助実績は、アカバネ：665 頭、イバラキ：628 頭、6 種混合：770 頭となった。

14ーエ. 家畜防疫互助基金造成等支援事業（独立行政法人農畜産業振興機構補助）；

独立行政法人農畜産業振興機構の補助「家畜防疫互助基金造成等支援事業」を受けて、海外悪性伝染病（牛疫、口蹄疫、牛肺疫、豚コレラ、アフリカ豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザ等）が発生した場合、これらの伝染病がまん延することを防止することを目的とし、淘汰による畜産農家の経済的損失を補償するための互助制度について、畜産農家に対し本基金の趣旨や事業内容等の周知徹底に努め、本基金への加入促進に努めた。平成 27 年度～平成 29 年度実績：酪農牛農家数 31 軒、肉牛 5 軒、豚 5 軒

14-オ. 馬飼養衛生管理特別対策事業；

馬の生産、流通の国際化などの進展により、海外からの感染症の侵入、流行の危険性も大きいことから、競走馬以外の馬の飼養衛生管理体制の総合的な整備を図る目的で、中央畜産会からの委託事業として、馬飼養衛生管理技術地方講習会を開催した。今年度は動物用医薬品の開発薬事コンサルティングや専門知識の提供サービスに取り組むアームズ株式会社から講師をお招きし、飼料やサプリメント、医薬品等に関するリスクマネジメントについてご講演いただいた。

また、馬インフルエンザ等伝染病については、馬の種類に関係なく共通して感染することから、馬感染症の予防対策の一環として、馬飼養衛生管理基準を遵守した飼養衛生管理を励行し、効率的な飼養衛生管理対策及び予防衛生の高揚に資するため、馬獣医療実態調査を行った。

1. 平成 29 年度馬飼養衛生管理技術地方講習会

日 時：平成 29 年 10 月 20 日（金）13:30～15:30<120 分>

会 場：大井競馬場 競馬事務所事務棟 第一会議室

テーマ：「馬の飼養管理および獣医療におけるリスク」

～馬用飼料・サプリメントの取扱、個人輸入医薬品・人体用医薬品の
効能外使用について～

講 師：アームズ株式会社 氏政雄揮

参加者：東京都獣医師会勝島支部員、大学・ポニーランド等の都内馬飼養者、
獣医師等 関係者 30 名

2. 平成 29 年度馬獣医療実態調査

回答数：17 件中 14 件

14-カ. 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業；

地域における自主防疫活動の強化を図るため、競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザのワクチン接種の推進、繁殖牝馬に対する馬鼻肺炎のワクチン接種の推進及び馬飼養衛生状況等の知識の普及啓発などの取組みを行い、馬伝染性防疫推進の徹底に努めた。平成 29 年度は都内に対象となる馬が存在するか調査を行ない、17 頭を確認し、ワクチン接種の補助を行った。

14-キ. 家畜自衛防疫推進事業；

口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等の発生時の迅速かつ的確な防疫措置が実施できるよう、生産者段階での初動防疫体制の充実・強化を図るため、講習会、防疫演習の開催等による自衛防疫体制の構築を推進した。平成 29 年度地域自衛防疫活動推進事業講習会では、昨年度に引き続き、「地域伝染病対策と発生時の対応」についての講習会と防護服着脱の体験実習を行った。また家畜疾病の防疫体制強化促進事業では、平成 29 年度に一部改定された飼養衛生管理基準の徹底・普及啓発、公衆衛生環境の向上に努めるための講習会を開催した。

1. 生産段階における防疫体制支援強化事業（自衛防疫体制強化推進事業）

自衛防疫講習会

日 時：1月28日(日)15:15～16:45 <90分>

会 場：都市センターホテル 千代田区平河町2-4-1

テーマ：「地域伝染病対策と発生時の対応～都内で鳥インフルエンザ等が発生した場合、パニックにならないために～」

防護要員の保護具着脱訓練（体験実習）

講 師：三宅 結子（東京都家畜保健衛生所防疫係）

参加者：獣医師、関係者 12名

2. 家畜疾病の防疫体制強化促進事業（飼養衛生管理基準等緊急啓発普及促進事業）

飼養衛生管理基準に係る講習会

日 時：12月12日(火) 14:30～16:30 <120分>

会 場：立川ホール5階会議室 立川市錦町2-1-33 立川南口HMビル

テーマ：「知っておくべき飼養衛生管理基準」

講 師：東京都家畜保健衛生所防疫係 桑山 隆実

参加者：都内飼養者、学校飼育動物担当獣医師、関係者 14名

3. 衛生体制強化基金事業

関係団体及び関連事業との連携により事業効果を高めた。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

都の委託を受けて獣医師を対象に獣医療事故及び獣医療過誤の防止を図るための獣医療倫理の啓発、獣医療事故に関する講習会を開催した。平成29年度においては、獣医師及び従事者の事件を幅広く取り扱う弁護士を講師に招き、実際に起こった獣医療トラブルを例に挙げながら、防止策、及び対処法を学んだ。講習会は2部構成で行われ、1部は4事例から見る「悪い対応、良い対応、その理由、総論的な話」、2部は今年フラクタル法律事務所が取り扱った事例の中から3つ取り上げ、パネルディスカッションを行った。

都委託事業 平成29年度小動物獣医療向上対策講習会

日 時：平成30年1月28日(日) 15:15～16:45 <90分>

会 場：都市センターホテル

テーマ：「実例から学ぶ。獣医療トラブル対策法」

講 師：フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）

弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師

動物看護師及び一般動物の飼育者等 関係者 35名

また当日の講習内容をVTRにまとめ、本会HP上で公開して広く普及啓発を行った。

II. 収益事業及びその他の事業

(1) 不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

(2) 福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

- 1) 共済給付 ①弔慰金 25件 ②傷病見舞金 16名 60回 ③災害見舞金 0件
- 2) 旅行保険の加入 3件
- 3) 無受給退会者への記念品贈呈 2件

(3) 加入促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努め、新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を配布して、法の遵守と適切な広告のあり方、獣医療倫理、適切な獣医療の提供とカルテの記述、獣医療過誤とインフォームドコンセントの徹底等を周知し、社会に対して公益性を担保した獣医業の恒久的な提供に努めた。また、本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を、関係各所に配布し、入会を促進した。また、賛助会員78社による協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の充実に積極的に取り組んできた。

(4) その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

また、会員病院の名入れカレンダーを受注、販売した。

(5) 事務委託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。